



小島友実の あの馬の **STORY**

サムシングジャスト

2020年2月16日・東京・初音S・ウイナーズサークル（一番右・松田調教師）

昨年の府中牝馬Sで着に追い込むな
る活躍を見せ、これがハンドicap馬として
管理する松田国英調教師の定年が残念ながら
ながら近づいてもあした。今回は師に色々と同
じました。

サムライジャパン新潟-1600メートル-2018年8月の
新潟-1600メートル-「1」-勝ち。直線でう
チと前にじふ馬の間を突き抜けに来た強
い勝ち方が印象的でしたよね。しかしつ
戦日から3歳の夏頃まではなかなか結果
が出ず、勝利を挙げられませんでいた。

サムシング・ジヤストがその素質を開花させていたのが3歳の秋頃からでした。

「3歳の8月下旬に牧場からトレーニングに戻ってきた時、随分と落ち着きが出ていました。牧場で緊張がとれた事で筋肉の動きが変わり、スケールアップする土地が少しあつた感じでしたね」

「それから松田講教師は一松山弘平先生の手の存在も大きいです」と話します。

「松山騎士は負けた時も敗因をしづがり説明しきれぬ。だからこそ、説き難いにのった課題を次につなげる事ができました。そこで何より、松山騎士はサムライ精神でジャストに向き合い、力を最大限に引き出す乗り方をしておられますね。」

3歳秋の復帰戦から、4歳となり初戸を勝つま、松山騎手が連續騎乗。19年10月の京都戦で待望の2勝目をマークする。次回の宝塚池特別も勝て連勝。3勝

「うっせー戦日で突破しました。その姿
寒びつは馬体重にも現れ、3歳後半から
は鍛錬されながらも500kgを超える上
り止なってきます。そして、脚元にも変
化が生じました。蹄は振り返ります。

松田師は1979年に競馬専門紙を退職し、トレーナー入り。96年に厩舎を開業して以来では重賞59勝を含む100勝をマーク(1月18日現在)。当初から「牡馬なら種牡馬になれる馬」。牡馬なら重賞を勝つ牧場へ戻す「ホリティー」で掲げて

日本ダービーを二勝した他、クロフネ、キングカメハメハなど、現代競馬の発展に寄与する大種牡馬も輩出しました。

「開業時から馬体や飼育など様々な研究を行ひ、他厩舎とは違つやり方を導入するなど挑戦もしました。結果がでたのはトレセンに入つてからのお世話になつた調教師や応援して下わつたオーナー、牧場関係者の皆様(ファン)の支えがあつたからですね。そして、グリーンアーバンモリスは良い馬を預けて頂き、河野社長をはじめ会員の皆様に大変お世話になつて感謝の気持ちでいっぱいです。残りあと僅かですが、月末までサンマングラジヤストージヤンマークへ向かう向かうでしきまわ。3月以降、引き継いでくれた厩舎は『わくが松田厩舎』だ馬』と脇ひじゆくべらむつじこたがひゆね」

ねと思つます。騎手の指示に応え、瞬時に疾い所へ入つて止むべ早早と駆けがこの馬の長所。もし私の管理下でタイトルを獲れなくとも、今後まだ重賞勝ちを狙ふる立場にひき留めます。

— 78 —

競馬キヤスター＆ライター。現在、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

profile